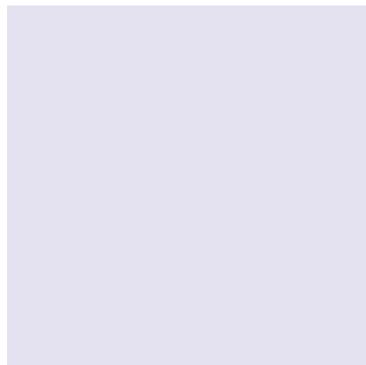
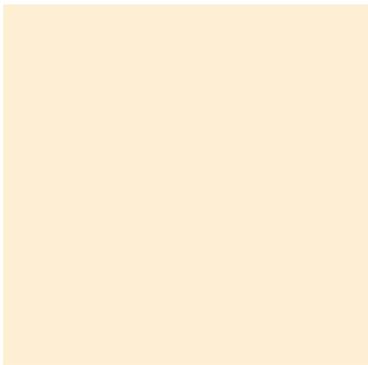
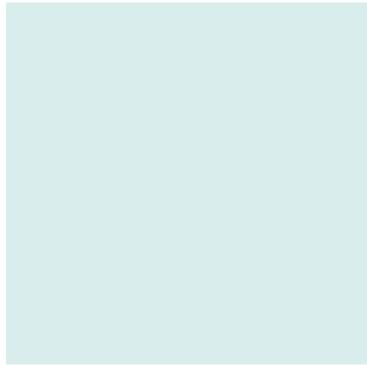


基金だより



はじめに



北海道教育大学長
蛇 穴 治 夫

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学では、教員をめざす、あるいは地域社会の様々な分野で活躍しようと勉学に励む学生を支援するため、平成18年12月に基金を創設し、募金活動を実施してまいりました。

この間、多くの企業・団体、同窓生、学生の保護者及び教職員をはじめとする、本学を思う様々な方々からご寄附を賜り、これまでに、延べ680名を超える学生に奨学金を授与してまいりました。また、経済的な理由により修学が困難な学生を支援する『修学支援事業』、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設・実施するなど、大変有意義に基金事業を展開することができました。

皆様から温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、現代社会に目を向けると、グローバル化などの進展に加え、Society5.0の実現に向け社会構造の変化がますます加速する中、予測困難な時代を生きる子供たちの教育に求められる内容も変化しています。本学では、教員を「教育に関する高度な専門職業人」と捉え、教育に関する専門的知識に裏打ちされた実践力や自ら問題の発見・解決に取り組む基本的な臨床的研究能力、そして教育的愛情と使命感を基礎として学び続ける力を持った人材を養成しています。

また、地域社会では、少子高齢化や人生100年時代の到来、地方創生の実現に向けた諸課題が山積する中、持続可能で活力ある社会を目指した変革が求められており、「国際地域学科」と「芸術・スポーツ文化学科」では、グローバルな視点をもって地域を活性化する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に豊かで幸福な生活を提案できる人材を養成しています。

次世代を担う人材養成のため、充実した教育体制や教育を支える環境整備はもとより、学生自身の自発的で積極的な学習への取組の奨励、経済的な理由により学業を断念することなく、安心して学業に専念できるための支援を行うなど、今後も基金事業を充実・継続してまいります。

本学は「教員と地域人材の養成を通じて、地域の成長・発展を牽引する大学」の実現に努めてまいりますので、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目 次

1. 令和元年度事業報告	2	5. 寄附者のご紹介	9
2. 基金の収支状況	2	企業、法人、団体等	9
3. 育英事業奨学金受給者から	3	個人	10
学部学生	3	6. 大学の近況報告	11
大学院生	6	7. お知らせ	13
4. 奨学金授与者数	8		

1

令和元年度事業報告

令和元年度事業として以下のとおり実施しました。

育英事業

①優秀な大学院生（現職教員以外）への奨学金支給	10名に対し、1人10万円	計100万円を支給
②優秀な学部学生への奨学金支給	15名に対し、1人10万円	計150万円を支給
合計	25名	250万円を支給

修学支援事業

①経済的理由により修学困難な学生に対する授業料減免	5名に対し、後期分授業料の半額	計669,750円を減免
②経済的理由により修学困難な学生に対する奨学金給付	20名に対し、1人10万円	計200万円を給付
③経済的理由により修学困難な学生の海外留学支援のための奨学金給付	5名に対し、海外留学に係る渡航費用の一部補助として	計50万円を給付

表彰事業

意欲的に学習や自己研鑽に励み、学業成績優秀な学生や課外活動等の成果が特に顕著な学生等を表彰
学業成績優秀者16名、その他の表彰6名（表彰状及び記念品を贈呈）

教員養成特別入試奨学金

教員となる強い意志を持った者を対象とした「教員養成特別入試」で合格した入学生への奨学金給付
10名に対し、1人10万円、計100万円を支給

キャンパス指定事業、附属学校（園）支援事業

「キャンパス活性化リノベーション事業」による修学環境の整備、函館校寄附講座の開催の支援、岩見沢校サッカー部の活動支援、附属札幌小学校の設備整備のほか、各校の修学環境整備、学生支援、教育支援、就職支援、学生生活活動支援等に要した経費を支出

2

基金の収支状況

令和元年度のご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
前年度からの繰入	45,724,068		
修学支援事業	2,613,000	修学支援事業	3,169,750
その他の事業	29,691,266	その他の事業	24,953,598
育英事業等	398,133	育英事業等	3,774,934
キャンパス指定事業	22,923,633	キャンパス指定事業	17,224,069
附属学校（園）支援事業	6,369,500	附属学校（園）支援事業	3,954,595
		管理費（リーフレット、手数料等）	620,041
合 計	78,028,334	合 計	28,743,389
		差引収支額	49,284,945

平成18年12月の基金創設時から、令和2年3月までのご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
修学支援事業	25,935,130	修学支援事業	7,030,236
その他の事業	184,980,901	その他の事業	151,753,810
育英事業等	96,238,384	育英事業等	85,204,968
		現代的教育課題への研究支援事業	306,188
キャンパス指定事業	79,703,017	キャンパス指定事業	59,833,969
附属学校（園）支援事業	9,039,500	附属学校（園）支援事業	6,408,685
		管理費（リーフレット、手数料等）	2,847,040
合 計	210,916,031	合 計	161,631,086
		寄附金残額	49,284,945

学部学生

◆札幌校 教員養成課程 学校教育専攻 2年 安中 詩織

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。日々の努力の成果をこのような形で評価していただけたことを大変嬉しく思っております。

私は現在、小学校教諭を目指しつつ、英語、特別支援、幼稚園教諭の免許取得を目指して、日々勉学に励んでおります。将来は、子どもの個性を伸ばし、夢を応援し、共に成長できる教育者になりたいと考えています。今後もご支援いただいた方々への感謝を忘れず、将来自分が教師として向き合う子どもたちのことを思い描きながら、日々精進していきたいと思っております。



◆札幌校 教員養成課程 特別支援教育専攻 3年 渡部 純玲

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく思います。

教育実習など、実際に子どもたちと関わる場面が増えていく中で悩んだことも沢山ありましたが、その中で自分を助けてくれたのは大学での学びでした。周囲の人々への感謝の気持ちを忘れず、これからもより一層勉学に励んでいこうと思っております。本当にありがとうございました。

◆札幌校 教員養成課程 学校教育専攻 4年 中村 早希

この度は、育英事業奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

私は、不登校児童・生徒などへの関心から、教育学分野への入学を決め、これまで教育課題や教育史について幅広く学んできました。グローバル化や情報化が急進する中で、社会における「教育」の役割はより大きくなってきていますが、「周りから学ぶ姿勢」を大切に一つでも多くのことを吸収して、社会に貢献していけるよう努力し続けていきます。

最後になりますが、ご支援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。



◆旭川校 教員養成課程 教育発達専攻 2年 細谷 里沙

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。これまでの努力をこのような形で評価していただき、大変光栄に思います。

現在、私は自分の専攻分野である特別支援教育を中心に、“学び”と向き合う日々を過ごしています。知りたい、やってみたいというワクワクする気持ちを大切に、これからも励んでいきたいです。

この度のご支援、誠にありがとうございました。

◆旭川校 教員養成課程 芸術・保健体育教育専攻 3年 樋渡 菜々花

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。お話をいただいたときはとても驚きましたが、これまでの努力がこのような形で評価され、大変嬉しく思っております。

私は大学生になってから、憧れの教師になるために勉学に励みながらも、専攻であるピアノやボランティア活動、訪問演奏など様々なことに取り組み、本当に楽しく充実した生活を送っています。これからは様々なことに挑戦するとともに、ご支援していただいた方々への感謝の気持ちを忘れずに日々精進し立派な教師を目指します。本当にありがとうございました。





◆旭川校 教員養成課程 数学教育専攻 4年 奥村 翔

この度は、北海道教育大学基金育英事業の奨学生として選出されたことを大変光栄に思っております。

授与された奨学金は、卒業研究での文献の購入や研究会への参加費用に使わせていただきます。今後、北海道教育大学基金の奨学生としての自覚を持ち、卒業研究や教員になるための準備により一層力を入れて参ります。北海道教育大学基金と北海道教育大学基金に関わる多くの方々へ感謝いたします。ありがとうございました。

◆釧路校 教員養成課程 地域学校教育専攻 2年 土屋 柊

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。今回、奨学生として選んでいただき大変嬉しく思っております。

私は今まで多くの方々を支えられてきました。現在も、大学の先生方、友人、多くの方々へ支えられ、日々の学びを充実させることができている。今後は、支えてくださっている方々への感謝を忘れず、自分が誰かを支えることができる教員になれるよう、現状に満足せず、学び続けていきます。本当にありがとうございました。



◆釧路校 教員養成課程 学校カリキュラム開発専攻 3年 伊藤 羽寿樹

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。今回、奨学生として選ばれたことに驚きを覚えるとともに、日々の取り組みをこのような形で評価していただけたことを大変嬉しく思っております。

多くの方々へ支えていただいていることへの感謝の気持ちを忘れることなく、より一層勉学に励むとともに、悔いの残らない学生生活を過ごしたいと考えております。

様々なことへ挑戦することを忘れず、自分の思い描く道を一步一步進んでいくことができるよう日々精進してまいります。

◆釧路校 教員養成課程 学校カリキュラム開発専攻 4年 川本 友華

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。このような奨学生に選んでいただき、大変嬉しく思うと同時に今後の活動に向けさらに努力を重ねていこうとする原動力となりました。

卒業まで残り少なくなりましたが、ご支援いただいた皆様への感謝の気持ちを忘れず、勉学に励んでいきたいと思っております。また、奨学生という名に恥じぬよう日々精進して参ります。この度は、本当にありがとうございました。



◆函館校 国際地域学科 地域協働専攻 2年 一戸 志織

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。私の学問への熱意をこのような形で評価していただきましたことを、大変嬉しく光栄に感じております。

私は、教員になりたいという目標を持ち、岩手県から北海道にやってきました。この大学での日々は学びの連続で、確実に私の力になっていることを実感しております。ご支援いただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、常に目的意識と向上心を持って、日々精進していきます。本当にありがとうございました。

◆函館校 国際地域学科 地域協働専攻 3年 近野 真優

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。こういった形で学業の成果を評価していただき、大変嬉しく、光栄に思います。

現在私は、就職活動に励みながら、アメリカ映画について研究しています。授与していただいた奨学金は、今後の活動のため大切に使用させていただき所存です。ご支援していただいた皆様への感謝の気持ちを忘れず、より一層気を引き締め、勉学に努めてまいります。重ねて、御礼申し上げます。



◆函館校 国際地域学科 地域協働専攻 4年 石黒 順也



この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。日頃の勉学に対する努力をこのような形で評価していただけたことを大変嬉しく思います。

現在私は、移民問題に焦点を当てて研究を進めており、近い将来、それを通じて得た知識や経験を活かして、社会の発展に貢献できればと考えております。ご指導して下さる先生方や、支えてくれる友人に感謝しながら、引き続き精進していきます。本当にありがとうございました。

◆岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 音楽文化専攻 2年 平田 紗希

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。日々の取り組みを評価していただけたことに対する喜びと、支えてくださった周囲の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

現在私は、「音楽の良さが伝わる演奏」を目指して、日々練習に取り組んでいます。そして将来は、教育者としてその過程で発見したことを伝えていきたいと考えています。ご支援いただいた皆様への感謝の気持ちを忘れず、これからも様々なことに積極的に取り組んで、努力し続けたいと思います。本当にありがとうございました。



◆岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 3年 野呂 沙織



この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。日頃の努力をこのような形で評価していただけることをたいへん嬉しく、また誇らしく思います。

大学生活の中で、順調にいかないことも多くありましたが、その度に周りの人々に支えていただきながら歩んでまいりました。これからも、寄付をくださった皆様、そして私を助けてくれた方々への感謝の気持ちを忘れずに、弛まず倦まず勉学や美術制作に励んでいきたいと思っております。本当にありがとうございました。

◆岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 芸術・スポーツビジネス専攻 4年 高橋 和泉

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より御礼申し上げます。昨年に続き奨学金をいただくことができ大変嬉しく思います。

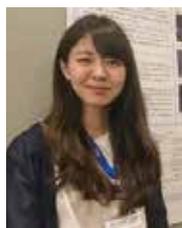
今回の奨学金を大学生活の一つの励みとし、より一層勉学に精進していきたいと思っております。この先、寄付していただいた皆様への感謝の気持ちを忘れずに努めていきたいと思っております。本当にありがとうございました。



◆教科教育専攻 音楽教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 横山 芙由美

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

大学院生になると、研究費や学会参加費など、研究のためにかかる費用がとても多くなります。学びを深めるためにも、このようなご支援は本当に有難く思っております。残りわずかとなった学生生活ですが、ご支援いただいている皆様への感謝を忘れず、最後まで研究に邁進して参ります。本当にありがとうございました。



◆学校教育専攻 学校教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 松本 奈津実

このたびは北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

大学院では、研究のためのフィールドワークや、学会への参加のために交通費がかかることが多く、このように支援頂けることがとても有り難く感じ、研究の励みになりました。ご支援して頂いた方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

◆教科教育専攻 英語教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 三分一 穉

この度は、北海道教育大学基金育英事業より、奨学金を授与していただきましたことに心から感謝申し上げます。

現状の英語教育の世界はめまぐるしく変動しています。その渦中で、私は北海道の英語教育に主眼を置き、「求められる英語教育とは何か」ということについて、見識を上げていくことに一層の尽力をしたいと考えている次第です。残り短い大学院生活ですが、懸命に研究に励もうと思っております。この度は本当にありがとうございました。



◆教科教育専攻 学校教育専修（旭川校） 2年 長瀬 桃果

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

奨学金授与のお話をいただいた際には、なぜ自分が選ばれたのか分からず大変驚きました。頂いた奨学金の使い方がわからず戸惑っておりましたが、先日本屋さんに行った時、今までは買うのを躊躇していた本を奨学金のおかげで購入でき、大変うれしく思いました。教員となるために一層精進し勉学に励みたいと思っております。本当にありがとうございます。

◆教科教育専攻 学校教育専修（旭川校） 2年 Tom Hoi Kit

このたびは、北海道教育大学基金奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

私は私費留学生として、大学院に入りました。そこで、更なる学びを深めるために、様々な学会や研究会に参加していますが、出費は学部生の時よりもずっと大きくなってしまいました。この奨学金のおかげで、自分の負担を減らすことができ、より気軽に学会に行くことができました。

これからは大学院や学会での勉強や研究を活かし、保育現場で力をつくしたいと考えています。誠にありがとうございました。

◆教科教育専攻 国語教育専修（釧路校） 2年 森 結華子

この度は、北海道教育大学基金奨学金を授与していただき心より感謝申し上げます。これまでの研究や活動を評価して頂いたこと、大変嬉しく思います。

6年前に教員になるという目標を掲げ本学に入学した時、「どんな教員になりたいか」を模索しながら自己研鑽を進めてきました。大学院に入学し国語、書道漬けの日々の中で、6年前に思い描いた姿に近づけたように思います。この6年間を教鞭の中で発揮できるよう感謝を胸にますます努力してまいります。



◆学校教育専攻 学校教育専修（函館校） 2年 寺田 明矢子

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

大学院では、近年の様々な教育問題から児童や生徒の人生に寄り添った教育活動について学び、考え、充実した日々を過ごしております。育児との両立は容易ではありませんが、先生方を初め多くの方々に支えられて学業に励むことができ、大変嬉しく思います。ご支援をいただいた皆様への感謝の気持ちを忘れず、今後も自己研鑽に努め取り組んでまいります。

◆学校臨床心理専攻 学校臨床心理専修（札幌校） 2年 安田 英広

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

このような過分な名誉に与りましたのは、学生の明日の成長を信じて、人間発達援助の世界に誘ってくださる先生方と、ともに学び、研究のことから日々の悩みや疲れに至るまで、語り合ってきた大学院の仲間の皆さまがいたからこそです。今後も、先生方や仲間たちとともに語り合いながら、専門性と臨床的実践力を高めていきたいと考えております。重ねて、この度は本当にありがとうございました。



（単位：人）

区 分		札幌校 札幌・岩見沢校	旭川校	釧路校	函館校	岩見沢校	計
平成19年度	大学院生	7	5	3	3	—	18
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	13	11	9	9	6	48
平成20年度	大学院生	32	15	13	4	—	64
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	38	21	19	10	6	94
平成21年度	大学院生	42	25	16	5	—	88
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	48	31	22	11	6	118
平成22年度	大学院生	36	16	12	5	—	69
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	19	15	8	3	84
平成23年度	大学院生	36	11	10	3	—	60
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	14	13	6	3	75
平成24年度	大学院生	33	16	8	4	—	61
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	36	19	11	7	3	76
平成25年度	大学院生	20	8	7	2	—	37
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	23	11	10	5	3	52
平成26年度	大学院生	3			2	—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	6	3	3	5	3	20
平成27年度	大学院生	2		4		—	6
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	3	7	3	3	21
平成28年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成29年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成30年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
令和元年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
計		279	155	126	80	48	688

北海道教育大学基金は、平成18年12月に創設以来、これまで多くの方々にご協力をいただき、学部学生、大学院生への支援をはじめ、寄附講座開催や修学環境整備等への支援を行っております。

ここに、そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、ご同意をいただいているの方々のご芳名とご寄附額をご紹介します。

寄附者ご芳名 ※平成31年4月～令和2年3月までにご寄附をいただいた方々を掲載しております。

企業、法人、団体等（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

10万円以上

岩田地崎建設株式会社 様	AUTO×AUTO 様	有限会社河村工業 様
一般社団法人全国スーパーマーケット協会 様	空知リゾートシティ株式会社 様	一般社団法人北師同窓会 様
医療法人北翔会岩見沢北翔会病院 様	株式会社北海道アルバイト情報社 様	北海道機販株式会社 様
北海道教育大学旭川校後援会 様	北海道教育大学岩見沢校教職員組合 様	北海道教育大学釧路校後援会 様
北海道教育大学札幌校教育後援会 様	北海道教育大学函館校尚学会 様	北海道教育大学生協同組合 様
北海道教育大学青陵会 様	北海道教育大学附属特別支援学校PTA 様	北海道教育大学六校会平成2年卒同期会Lの会 様

※五十音順

10万円未満

株式会社アース技研 様	あーつ・なな 様	アクサ生命保険株式会社 様
旭川通運株式会社 様	旭川電気軌道株式会社 様	株式会社アドレ 様
株式会社天野屋 様	ECCジュニア神山教室 様	株式会社石田文具 様
岩見沢液化ガス株式会社 様	岩見沢ガス株式会社 様	社会福祉法人岩見沢光明舎 様
一般社団法人岩見沢市観光協会 様	岩見沢通運株式会社 様	岩見沢鉄骨工業株式会社 様
岩見沢北交ハイヤー株式会社 様	岩見沢ヤクルト販売株式会社 様	及川産業株式会社 様
音の森はこだて 様	音の森はこだて花園 様	開発工建株式会社 様
特定非営利活動法人かがりの杜 様	柏崎建設株式会社 様	北日本庭苑設計株式会社 様
株式会社くりねん 様	共進工業株式会社 様	合同会社友結放課後等デイサービスあるく 様
株式会社小坂工務店 様	有限会社コロナ 様	株式会社コンドウ生コンクリート 様
栄建設株式会社 様	有限会社三敬商事 様	株式会社サン研ライフサービス 様
株式会社サンテックス 様	サンライズ美容室 様	有限会社三和印刷 様
株式会社シーエーパイ 様	株式会社CBC 様	株式会社正文舎 様
昭和マテリアル株式会社 様	特定非営利活動法人自立支援センター翔栄 様	株式会社振興いわみざわ 様
株式会社菅原組 様	スナックピギン 様	NPO法人セラピア 様
空知信用金庫 様	空知石炭株式会社 様	株式会社大和商会 様
株式会社タカサキ電設 様	株式会社高橋工務店 様	武部建設株式会社 様
税理士法人TACS 様	株式会社田中遼風園 様	タマツ電機工業株式会社 様
千葉電気工業株式会社 様	津島工業株式会社 様	特定非営利活動法人つむぎ 様
東光電機工業株式会社 様	株式会社道水 様	株式会社トッキュウ 様
トミヤ商事株式会社 様	社会福祉法人七飯有隣会 様	株式会社南部電設工業 様
有限会社仁志陶器建材店 様	特定非営利活動法人はあと 様	株式会社白亜ダイシン 様
株式会社はこせき 様	社会福祉法人函館恵愛会 様	函館市南北海道教育センター指導主事一同 様
株式会社函館平安システム 様	社会福祉法人函館緑花会 様	早川建築資材株式会社 様
ピアノ工房多米有限会社 様	日の出交通株式会社 様	税理士法人ひまわり 様
特定非営利活動法人氷室冴子青春文学賞 様	福中建設株式会社 様	附属函館小学校職員一同 様
NPO法人ふれあい 様	株式会社文明堂 様	株式会社ほくえい 様
北央共立販売株式会社 様	株式会社北洋銀行 様	北海道教育大学岩見沢校こぶし会事務局 様
北海道教育大学事務系職員OB・OG会 様	北海道教育大学生協同組合岩見沢支部 様	北海道電力株式会社送配電カンパニー岩見沢店 様
有限会社北光教販 様	株式会社ボラリス 様	株式会社政安土木 様
松浦建設株式会社 様	三浦商会 様	株式会社美さき 様
みぞぐち事業株式会社 様	武蔵商事株式会社 様	やすらぎの家 様
山田歯科医院 様	有限会社大和システムサービス 様	山本建業株式会社 様
株式会社悠愛 様	遊ing 様	株式会社吉成備電 様
株式会社ライフネット 様	有限会社ラック・アンド・モール 様	

※五十音順

企業、法人、団体等（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

株式会社エッセ 様	協立内科クリニック 様	株式会社シーエーパイ 様
社会福祉法人聖樹の杜 様	函館駅二商業協同組合 様	社会福祉法人侑愛会 様
北海道教育大学生協同組合函館キャンパス 様	特定非営利活動法人みんなのさぼーたーわっとな 様	株式会社LAV 様

※五十音順

個人（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた個人）

10万円以上

柿沼 博彦 様	菊地 圭 様	後藤 泰宏 様	志手 典之 様	蛇穴 治夫 様	芹田重次郎 様	広瀬 るみ 様				
---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	--	--	--	--

※五十音順

10万円未満

四十物 博 様	青木 優一 様	秋田 朋美 様	安田 由美 様	阿部 二郎 様	阿部 直保 様	阿部 令枝 様	阿部 永 様	阿部 博志 様	阿部 宏行 様
荒井 淑恵 様	新垣 加奈 様	荒川 隆志 様	新谷 昭一 様	五十嵐日出男 様	池内芙美代 様	池田 正 様	池田三枝子 様	池端 宏介 様	池森 咲菜 様
石井 成美 様	石川 公浩 様	石川 亨信 様	石澤真紀夫 様	石野 悟司 様	泉 菜月 様	伊勢千絵子 様	板垣 大助 様	伊田 和史 様	市野 孝雄 様
一戸 由加 様	伊藤吉三郎 様	伊藤 尚 様	伊藤 皓嗣 様	伊東 実 様	伊藤 泰 様	伊藤己代子 様	伊藤 亮子 様	稲葉 宏彰 様	稲辺 隆史 様
稲村 征紀 様	井下 和枝 様	今村いづみ 様	伊早坂宏 様	上野 樹 様	上野 昇 様	宇野 貴雄 様	梅原 悠輔 様	梅原 悠輔 様	瓜生 淳一 様
繪面 和子 様	海老名 尚 様	大井川 学 様	大江 祐貴 様	扇谷 仁志 様	大久保和義 様	大坂 治 様	大島 章司 様	太田千佳子 様	大谷奈穂美 様
大西奈那子 様	大西 洋 様	大西 涼子 様	大沼真由美 様	大橋 孝之 様	大平 知恵 様	大淵 佳恵 様	尾形 隆昭 様	岡田 恵 様	岡部 和夫 様
岡光 一浩 様	岡本 稔子 様	沖野 史織 様	奥田 亨 様	尾崎 芳子 様	小山内武弘 様	尾関 俊浩 様	小田 啓介 様	落合 雄市 様	音羽 孝文 様
小山 直子 様	加賀谷房子 様	角田 遼太 様	笠井 純 様	梶原保範 様	片山 忍 様	加藤 潔 様	加藤 訓 様	加藤 節子 様	加藤 保孝 様
門脇 正和 様	門脇 正俊 様	金丸 紀子 様	金見 修司 様	神村 昌樹 様	亀井 伸二 様	川合 陸斗 様	川上 幸三 様	川上 将 様	川島 孝夫 様
川村 徹 様	神野藤重瑞 様	菊池 和枝 様	木口 雄樹 様	北村 勝範 様	北守 昭文 様	網野 重治 様	木村 大輔 様	木村 尚仁 様	木村 宣孝 様
木谷 琢睦 様	京極 健汰 様	工藤 美緒 様	窪田 忠義 様	久保 良宏 様	倉重 哲二 様	栗田 俊一 様	黒川 英雄 様	黒崎 米造 様	黒瀧あゆみ 様
黒谷 雅代 様	小池理絵子 様	小石 優子 様	小岩真智子 様	古城 瞳 様	児玉絵美子 様	後藤 健一 様	後藤 隆 様	小西 三男 様	小林 妙子 様
小林 貴子 様	小林 初美 様	小林 佳之 様	小松 和也 様	紺野 敦郎 様	今野 文夫 様	今野 美香 様	齊藤 郁美 様	齋藤 克彦 様	斎藤 祥子 様
齊藤 慎 様	齊藤 宏志 様	齋藤 啓代 様	齊藤 真理 様	齊藤 南 様	齊藤 佳子 様	齊藤 留美 様	佐賀 育子 様	坂上 範夫 様	榭原 郁子 様
坂田 紘一 様	坂本 紀子 様	坂本 真理子 様	坂本 陸人 様	佐川 正人 様	櫻井 英司 様	櫻田 邦範 様	佐々木 勲 様	佐々木岩男 様	佐々木 馨 様
佐々木けいし 様	佐々木健三 様	佐々木 茂 様	佐々木征一 様	佐々木豊松 様	佐々木芳徳 様	佐々木 祐之 様	佐藤 歩惟 様	佐藤あゆみ 様	佐藤 一明 様
佐藤 一英 様	佐藤ケイ子 様	佐藤 達 様	佐藤 哲矢 様	佐藤 典克 様	佐藤 悠 様	佐藤 浩樹 様	佐藤 文男 様	佐藤 正人 様	佐藤真梨絵 様
佐藤 結花 様	佐藤由美子 様	澤村 太一 様	品田 亮子 様	島津 彰 様	清水 剛 様	白鳥 宏幸 様	白幡 健一 様	紫和留里子 様	新開谷 央 様
新川 明子 様	新保 拓海 様	新保ちほる 様	新谷 公康 様	菅原 潤一 様	菅原 立樹 様	菅原マリ子 様	菅原 湧介 様	杉浦 清志 様	鈴木 猛 様
鈴木美喜子 様	鈴木安一郎 様	須藤 由司 様	諏方 幸紀 様	瀬尾 朝子 様	瀬川 秀良 様	高井 康司 様	高石 純 様	高崎 栄 様	高階 玲治 様
高島久仁子 様	高橋 修 様	高橋 一矢 様	高橋 修一 様	高橋 文 様	高橋 進 様	高橋 英雄 様	高林 泰浩 様	高山 裕章 様	竹島 均 様
立田 俊治 様	田中 和久 様	田中 哲治 様	田中 千義 様	田中 芳子 様	田辺 信之 様	谷本 愛 様	玉井 康之 様	田村 光規 様	千葉 胤久 様
塚田 泰男 様	辻口 宏太 様	對馬 正美 様	辻 有希 様	土屋 和彦 様	鶴本あかね 様	土肥 由香 様	東海林明雄 様	徳永 好治 様	戸田 弘二 様
冨岡 洋太 様	冨田 幸雄 様	直井 慶子 様	直塚 龍治 様	中原満宏 様	中小路幸幸 様	長澤 勇 様	中島 卓弥 様	中嶋 久 様	長田 華音 様
中田 亨 様	中谷 裕持 様	中田 好子 様	中塚 英俊 様	中野 聖 様	中村 直嗣 様	中村 幹夫 様	中村美和子 様	夏井 毅 様	成田 悦子 様
新出 誠 様	新見亜矢子 様	西館 慧 様	西野 吉葉 様	西村 昭司 様	西村 昌修 様	野田 学 様	信田 利之 様	野村 卓 様	野村 英子 様
野呂亜里沙 様	芳賀 敦 様	芳賀 卓 様	萩 佑 様	橋田 恭一 様	橋本 彩 様	橋本 損雄 様	橋本 忠和 様	長谷川勝也 様	畑中 佳子 様
畑本 信芳 様	花輪 和明 様	羽子田龍也 様	瀨方 弥生 様	林 耕司 様	原田 幸一 様	樋口 英子 様	千石喜美子 様	蛭田 眞一 様	広川 和夫 様
福江 良純 様	福田 薫 様	福田 隆 様	福田 肇 様	藤枝 悦子 様	藤枝 勝雄 様	藤中 彰二 様	藤間 光晴 様	藤本 貞子 様	船岡 浩司 様
船岳 紘行 様	古川 喜一 様	保科 麻美 様	本庄 十喜 様	本堂 知彦 様	本間 彌子 様	前 佳子 様	前田 克彦 様	太田 健一 様	増淵 哲子 様
松井 征三 様	松浦 俊彦 様	松倉 浩平 様	松田 順子 様	松田宗一郎 様	松田 巴義 様	松藤 美子 様	松前 博一 様	松本 伸吾 様	松山 彩美 様
村岡 章子 様	内山 貴彦 様	丸山 鉄雄 様	丸山 美晴 様	三浦 昭郎 様	丸山 美樹 様	水上 文実 様	水野 眞吉 様	水野 正 様	水野 政勝 様
溝口 幸司 様	三橋 功一 様	水戸 昭二 様	水戸麻記子 様	宮野 健 様	宮野ゆかり 様	関 鎮京 様	宗像 修一 様	村岡 陽菜 様	村山 憲司 様
茂木 祐佳 様	森田 章裕 様	森 宗徳 様	八木 恭子 様	八子 直子 様	安川 和博 様	安川 禎亮 様	山内 祈信 様	山形 昇平 様	山口 亞希 様
山口 真司 様	山口 博史 様	山口 文章 様	山口 義寛 様	山崎 隆恵 様	山下 克彦 様	山下 憲一 様	山田恵理子 様	山出 幹夫 様	山中 剛 様
山本 千秋 様	山本やす代 様	横井 茂子 様	吉田瑠美子 様	吉原 禎征 様	米本 智 様	和田恵理奈 様	和田 照子 様	渡部健二郎 様	

※五十音順

個人（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた個人）

青木 昌雄 様	浅利 節子 様	瀧美 伸彦 様	阿部 博光 様	天野 哲征 様	安藤 創太 様	五十嵐靖夫 様	泉澤玄一郎 様	板津 邦夫 様	市川 仁 様
一戸 裕之 様	伊藤 宏介 様	伊藤 祐子 様	伊藤 隆介 様	犬飼 厚史 様	千葉 修 様	入江 修策 様	岩木 公平 様	植木 克美 様	上山 功夫 様
梅木 敦子 様	遠藤 純代 様	大津 和子 様	岡崎 泉 様	小笠原美勝 様	岡部 哲也 様	奥田 知靖 様	奥村 広 様	小倉 晃布 様	小栗 祐美 様
小田 将之 様	尾山 康浩 様	笠島弥栄子 様	柏木 健佑 様	加藤 順也 様	金子 信也 様	鎌塚 宗一 様	神山 浩司 様	亀廻井茂勝 様	菅藤 正伸 様
菅野 淑子 様	菊地 正隆 様	北辻 覚 様	工藤 志歩 様	熊井 龍哉 様	蔵野由紀子 様	來正 遊 様	小出 高義 様	小島 容子 様	後藤 嘉也 様
小林美真子 様	今野 英明 様	齋藤 由貴 様	酒井多加志 様	坂口 勉 様	坂本 奈緒 様	佐々木国博 様	佐藤 香織 様	佐藤 徹 様	佐藤 肇 様
佐藤 昌彦 様	佐藤 光雄 様	佐藤 良樹 様	澤田 廉三 様	塩田 直之 様	品田真太郎 様	島澤 正弘 様	清水 拓海 様	清水 秀朗 様	庄井 良信 様
末次 直子 様	末次 弘明 様	杉田 誠治 様	鈴木 明彦 様	鷹野 正義 様	高橋 圭介 様	高橋 俊男 様	高橋 教一 様	田口 哲 様	竹下 和秀 様
竹嶋 充 様	内本 昌樹 様	辰巳 誠治 様	田中 邦明 様	田中 民 様	手嶋 裕幸 様	寺沢 久光 様	寺田 貴雄 様	戸坂 隆 様	中垣 隆之 様
中河 廣子 様	嶋田 聡 様	中島 太郎 様	中島 寿宏 様	中條由紀子 様	中西 紗織 様	中西 良子 様	中山 雅雄 様	中谷 匡利 様	南部 正人 様
根本亜矢子 様	根本 直樹 様	畠山 大 様	早坂洋次郎 様	林 昌司 様	原 香 様	板東 忠康 様	東出 隆 様	引地 秀美 様	樋口忠次郎 様
樋口 壽夫 様	樋口 誠 様	日野 歩未 様	星野 立子 様	細川 健裕 様	本多 尚子 様	牧 雄司 様	目黒 将也 様	松居 苑子 様	松岡 利夫 様
松永加也子 様	松橋 智子 様	三浦 啓子 様	三上 修 様	三谷 将之 様	三村紗瑛子 様	宮崎 楓雅 様	村上健太郎 様	森 健一郎 様	森谷 康文 様
八重樫良二 様	山口 大輔 様	山崎あさの 様	山下 小幸 様	山下 航 様	山田 顕次 様	山田 玲子 様	柚木 朋也 様	横藤 雅人 様	横山 悟 様
横山 吉樹 様	吉村 功 様	米谷 元捷 様	若松 泰生 様	和田 公利 様	渡利 正義 様				

※五十音順

■ 釧路校で「プロジェクト研究I」発表会を開催

令和2年1月15日(水)、釧路校地域学校教育実践専攻の特色ある科目の一つとして開設された「プロジェクト研究I」（1年次、必修）の全体発表会を開催しました。

「プロジェクト研究I」は、身近な社会問題や教育現場での課題について、教科・分野を超えてテーマを自由に設定し、課題解決に向けた改善策を追求する科目です。参加型の学習を重視し、これからの教師に求められる力量を形成していくことを主眼として、新専攻におけるカリキュラムの柱となる科目として設定されました。

学生が所属する分野を跨いでグループを編成し、グループごとに構想、計画を立て、プロジェクト・テーマに応じて、調査・研究を行い、異なる視点や立場からの多面的・多角的な観点を基に、分野横断的なディスカッションを重ねながら、批判的思考力、問題解決能力を身につけていきます。

今年度は32のグループが、「SNSと読解力の関係」、「再生可能エネルギーについて」、「児童虐待」、「若者の投票率」など、それぞれで関心あるテーマを設定し、解決・改善のための提案を行い、発表資料は釧路校1階の学生ホールに展示され、多くの学生等が足を運びました。



発表資料展示の様子



発表資料展示の様子

■ 札幌校でNHK大学セミナー開催

令和2年1月21日(火)、NHK札幌放送局との共催によるNHK大学セミナーが開催されました。

講師には、オリンピックに5度出場された元女子フリースタイルスキー・モーグル日本代表の上村愛子氏を札幌校にお招きし、教養科目「生きる」の1コマの中で、上村氏のこれまでの競技生活を中心に、授業担当教員の札幌校幸坂准教授との対談形式により講演いただきました。

本授業は双方向遠隔授業システムを活用して札幌校から旭川校及び釧路校に配信し、札幌校102名、旭川校67名、釧路校33名の計202名が参加しました。

上村氏からはオリンピック出場で印象に残っていること、何度もオリンピックに挑戦を続けられたその原動力や挑戦し続けることで得られたもの、ご自身のこれまでの生き方、そしてこれからの生き方等についてお話し



対談の様子

ただき、学生からは「マスメディアと競技パフォーマンスの影響について」、「将来教職に就いた際に運動することの大切さをどのように教えたらよいかについて」等、活発な質問がなされ、とても有意義なセミナーとなりました。

■ 旭川校で日本税理士会連合会による寄附講座を開講

令和2年2月5日(水)、3年間にわたる寄附講座の開設成果報告として、北海道税理士会館において「租税教育シンポジウムin 札幌」を開催し、税理士、札幌国税局職員、卒業生、保護者等45名が参加しました。

はじめに、北海道税理士会会長の金坂和正氏と同会教育推進部長の有田真人氏からご挨拶をいただきました。続いて、寄附講座を担当する旭川校 佐々木謙一教授が「北海道教育大学旭川校における租税教育の取り組みと意識調査」と題した基調講演を行いました。

パネルディスカッションでは、「教員養成課程大学と税理士の協働による租税教育の実現と今後の展開」をテーマに、各パネリストからそれぞれの立場で実践する租税・財政教育の取り組み等の報告がありました。パネリストと参加者との質疑応答では、教師と専門家のチームティーチングの可能性、専門家の児童・生徒視点に立った出前授業内容の有効性等が議論される等、活発な意見交換が行われ、盛会裏に終わりました。



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

■ 函館校で被災地支援実習報告会及び講演

「北海道胆振東部地震 被災地支援の現場から見えてきたことⅡ」を開催

令和2年2月6日(木)、函館校において、被災地支援実習報告会及び講演「北海道胆振東部地震 被災地支援の現場から見えてきたことⅡ」を開催しました。

今回、NPO法人ezorockと本校が連携し、北海道胆振東部地震で被災した地域にて実施した支援実習（地域づくり支援実習、地域政策ボランティア実習）を通して、参加学生並びに一般市民の方々と被災地支援の現場から見えてきた課題等について共に考え、理解を深めるために実施されました。

まず、被災地において支援実習を行った学生3名から、被災地の現状や放課後児童クラブでの支援活動、実習中の共同生活の様子などについて報告。「教育に対する姿勢に厚真らしさを感じた」「町民が子どもたち一人ひとりを見てい

る感じがした」「もし厚真町について少しでも興味を持ってくださる方がいらっしゃれば、まずは行ってみることを強くおすすめします」などと話しました。

次に、NPO法人ezorock代表理事 草野竹史氏、同プロジェクトコーディネーター 水谷あゆみ氏 を講師として迎え、「北海道胆振東部地震 被災地支援の現場から見えてきたことⅡ」と題して講演がありました。

草野氏から、「実習を通じて学生が成長することは結果論。現地では目の前にあることについて、ひたすら一生懸命に取り組むことが大切」と語り、次年度に向けてエールを送りました。

今後とも函館校では、さまざまな機会を通じて、被災地への支援活動を積極的に支援していきます。



被災地支援実習について報告する学生



NPO法人 ezorock 代表理事 草野氏

■ 岩見沢校学生と一般社団法人SLDIが自宅のできる運動プログラムを紹介

岩見沢校スポーツ文化専攻スポーツ教育学研究室と一般社団法人SLDIが連携して、自宅のできる運動プログラムの動画を岩見沢校ホームページで紹介しました。

この動画は一般社団法人SLDIが作成したもので、第一弾では「SLDI運動チャレンジ」、第二弾では「バルシューレ

チャレンジ」を公開しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、在宅勤務の導入、外出自粛、休校措置等により自宅等で過ごす時間が増える中、家族で一緒に取り組み、体を動かして、運動不足やストレスを解消する狙いがあります。



SLDI運動チャレンジ



バルシューレチャレンジ

※一般社団法人SLDIとは「Sports Life Design Iwamizawa」の頭文字を取ったもので、大学院教育学研究科に所属する学生が設立した地域スポーツクラブです。本校と連携協定を交わし、学生の実践機会の創出やスポーツに関する様々なプロジェクトでも協力しています。

一般社団法人SLDIホームページ <https://sldi.club/>

お知らせ

■ キャンパス活性化リノベーション事業について

本学では、新時代の幕開けとなった令和元年に、本学が70周年を迎えることを契機に、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設しました。

令和元年度は4つの事業を採択し、皆様からの多大なるご支援によりすべての採択事業で寄附目標額を達成いたしました。現在、学内予算を充当して工事を実施し、事業を実現しております。（一部、工事が完了しております。）

〈札幌校〉 「レストルーム整備事業」

「レスト(Rest)」＝「休息」をコンセプトとした、魅力ある新たな空間整備

本事業に対する寄附金
寄附総額 1,402,000円
(寄附目標額100万円／達成率140%)



〈函館校〉 「学校と地域をつなげる体育館」創生事業

学生の運動環境を充実するため。地域とつながるため。開かれた体育館実現の第一歩です。

本事業に対する寄附金
寄附総額 2,188,000円
(寄附目標額170万円／達成率129%)



〈附属特別支援学校〉 共生社会実現のための地域に開かれた学校づくり事業

附属特別支援学校が地域の共生社会実現に向けたセンターになるために

本事業に対する寄附金
寄附総額 1,631,500円
(寄附目標額100万円／達成率163%)



〈岩見沢校〉 大学ギャラリー設置事業

学生が学び、市民が憩う「ちゃんこい(小さい)」大学ギャラリー設置の実現へ

本事業に対する寄附金
寄附総額 5,184,828円
(寄附目標額512万円／達成率101%)



■ 新型コロナウイルス感染症に伴う「緊急学生支援金」について

本学では、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、アルバイト等の収入が激減し経済的に困窮している学生を支援するため、緊急学生支援金を給付することとしました。

緊急学生支援金は、将来、教員になることや地域社会の様々な分野で活躍することをめざし勉学に励む学生が、経済的な理由により学業を断念することなく、安心して学業に専念できるよう、皆様から頂戴しました寄附金（北海道教育大学基金）を活用し、学生を支援するものです。

第一弾として、アルバイト収入が激減（50%以上）又は全く無くなった学生や、アルバイトをする予定であったがなくなった新入生など、応急的支援を必要としている学生223名に一人あたり3万円の「緊急学生支援金」を給付しました。（令和2年6月に給付）

また、第二弾では、第一弾で対象とならなかった学生51名に一人あたり3万円を給付しました。（令和2年8月に給付）

緊急学生支援金の実施に先立ち調査した「学生の経済状況に関するアンケート」では、まだ多くの学生が修学を継続するための経済的な支援を必要としており、次回は給付条件を一部緩和し、これまでに対象とならなかった学生へ給付します。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い 経済的に困窮している学生にご支援を

北海道教育大学の学生は、新型コロナウイルスの蔓延に伴って学業や生活・就職活動、先が読えない不安を抱えながら過ごしています。また、多くの学生がアルバイトをしていますが、一部の学生からはアルバイトによる収入が激減し、日常生活にも影響しているとの声が多く聞かれています。

このような状況の中、学業継続の学生への経済的支援として、北海道教育大学基金（学業奨励基金）を活用した「緊急学生支援金」を給付することとしました。今、新たに立ち上げられている予備金の活用も合わせて、今後のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学生からの声

「授業料のアルバイトもしていますが、激減しています。収入が少なくなり、生活費、授業料の支払い（授業料の一部や教材費）の支払いに影響が出ています。（3年生 女子）」

「アルバイトが激減して、収入が以前の1/3になりました。今はまだ大丈夫ですが、この状況が続くと生活が難しくなるかもしれません。（2年生 男子）」

「アルバイトがなくなってしまいました。困窮になることを恐れています。あと1年しかない学業継続できる期間になりました。このままでは、自費留学に思い悩んでいます。（4年生 男子）」

学生の現状

状況	人数	割合
現在、経済的な心配があるが、アルバイトをしている	100名	45%
アルバイトの目的は	100名	45%
アルバイトの収入に影響があった	100名	45%

■基金の使途

ご寄附いただいた基金は「緊急学生支援金」として、支援を必要としている学生に給付いたします。第一弾として、学生223名に一人あたり3万円を給付いたしました。（令和2年6月実施）

第二弾の集約に先立ち実施した「学生の経済状況に関するアンケート」では、まだ多くの学生が修学を継続するための経済的な支援を必要としており、次回は、第一弾で対象とならなかった学生への給付も予定しております。

■基金の受付先（本学ホームページ）

「緊急学生支援金へのご寄附（受付）のご案内」
 「北海道教育大学基金（学業奨励基金）」からお問い合わせいただけます。
 「学業奨励基金」は、併設校の「札幌学院」の行方です。

北海道教育大学
 〒000-8602 札幌市中央区南4条5丁目1番1号
 TEL:011-740-8000 FAX:011-740-0028
 E-mail: s-staff@hokkyo.ac.jp

■ クレジットカード決済によるご寄附について ■

北海道教育大学基金のWebサイトからお申込みいただけます。
 詳細はWebサイトをご覧ください。（スマートフォンからのお申込みもできます）

北海道教育大学基金 検索



■ 北教大古本募金について ■

皆様を読み終えた書籍等を提供いただくと、その買取金額が「北海道教育大学基金」に寄附され、育英事業等に役立てられます。ホームページからのお申し込みに加え、各キャンパスに回収ボックスも設置しております。不要となった書籍、CD、DVDなどのご寄附をお待ちしております。

北教大古本募金 検索

寄附者様特典

■寄附者のご芳名の掲載について

ご寄附をいただいた方々への感謝の意を込めまして、本学のホームページにご芳名を掲載させていただきます。また、高額のご寄附をいただいた方々につきましては、本学ホームページ上のWeb寄附者銘板にご芳名を刻み、末永く顕彰させていただきます。

※ご芳名の掲載の削除を希望される場合は、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

■贈呈品について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学関連の贈呈品を差し上げております。



ホタテ箸



藍染ハンカチ

■定期演奏会等への御招待について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学が実施するイベント（定期演奏会など）に御招待します。

税制上の優遇措置（税額控除制度について）

■対象：修学支援事業

租税特別措置法の一部改正により、国立大学等が実施する修学支援事業に充てられる個人からの寄附にかかる所得税の税額控除制度が導入されることとなりました。

北海道教育大学基金の修学支援事業へのご寄附は税額控除の対象となりますので、確定申告の際に寄附者様において、所得控除又は税額控除のいずれかを選択することができます。

$$\left(\begin{array}{c} \text{所得金額} \\ \text{(年収)} \end{array} - \begin{array}{c} \text{諸控除} \\ \text{(扶養控除等)} \end{array} \right) \times \begin{array}{c} \text{(税率)} \\ 5\% \\ 10\% \\ 20\% \\ 23\% \\ 33\% \\ 40\% \\ 45\% \end{array} = \begin{array}{c} \text{所得税額} \\ \text{(寄附金-2,000円) \times 40\% を控除} \end{array}$$

寄附金のうち、2,000円を超える額の40%が所得税から控除されます。その金額の所得税が還付されます。
※所得税額の25%が限度です。

《例：年収500万円の寄附者が1万円寄附した場合》

○税額控除の例：税率に関わりなく、8,000円×40%=3,200円

○所得控除の例：(10,000円-2,000円=8,000円) × (税率10%(平均的な世帯の諸控除額を想定)) = 800円

国立大学協会資料から一部転用

【お問い合わせ先】

北海道教育大学基金事務室

〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

北海道教育大学総務部総務課内

TEL:011-778-0206,0915 FAX:011-778-0631

E-mail:s-somu@j.hokkyodai.ac.jp

<https://www.hokkyodai.ac.jp/fund/>

2020.9発行